



拓け！自らの可能性

進路だより 第1号

令和4年6月10日発行

～社会参加に向けて～

だて支援学校キャリア支援部

校長あいさつ



校長 本田 知史

「思うは招く」みなさんはこの言葉を聞いたこと、目にしたことがあるでしょうか？この言葉はロケット開発者植松努氏（植松電機代表取締役社長）の言葉です。植松さんが、中学生の時にお母さんから教えていただいた言葉だそうです。植松さんは学校の成績がすごく悪かったのですが、飛行機やロケットの仕事をしたと言ったそうです。その時にお母さんは、「あんたには無理だわ」と言わずまた、「頑張ればできる!」とも言わなかったそうです。その代わりに「思うは招く」という言葉を教えてくれたそうです。この言葉のおかげで植松さんは、現在会社経営の傍ら、ロケット開発はもちろん、子どもたちにもロケットに関するワークショップを開くなど自分の夢をかなえています。

短い言葉ですが何かをするときに私もよりどころにすることばのひとつであります。キャリア教育の4つの力のうち「意思決定能力」に通じるものがあります。また、本校の学校教育目標の「自ら学び、自ら考え行動する」にもつながっています。「思うは招く」、短い言葉ではありますが力（パワー）があります。

開校初年度、キャリア支援部では精力的に関係先訪問を実施し、伊達地域の企業、福祉事業所、行政機関等と連携を密にします。

子どもたちの進路、夢、希望、笑顔のため保護者の皆様と協力しながらキャリア教育を進めて参ります。今後ともよろしく願いいたします。

高等部産業現場等における実習が始まります

高等部主事 香取里美

だて支援学校が開校し、2か月が経過しました。生徒たちも、ようやく学校生活に慣れてきたようです。6月に入り、高等部の大きな行事の一つである「前期産業現場等における実習」が始まります。1年生を中心とした校内での実習と、2、3年生を中心とした校外での実習となります。期間は6月20日（月）から7月1日（金）までの2週間となります。感染症への対応等、様々な対策をとり、充実した実習にしたいと考えています。

校内での実習は、ソーシャルサービス班（喫茶サービス、事務サービス）の活動となります。また、校外での実習は、2、3年生全員が企業や福祉サービス事業所の御協力のもと、5社の企業と11か所の福祉サービス事業所で実習を実施させていただく予定です。

産業現場等における実習を通して、働くことや社会生活を送るために必要なことを学ぶとともに、自分の適性や課題を改めて確認し、卒業後の進路実現を図ることを目指しています。

保護者の皆様には、お子様の進路実現に向け、お子様本人が自己選択、自己決定できまよう励ましの言葉や実習に際しましての御協力をお願いいたします。

作業学習紹介

< 中学部 >

今年度の中学部では、班を分けずに校舎内の清掃活動や、トマト、ナス、ピーマン、ししとうの栽培などの畑を使った農園芸活動、フラワースタンドなどを制作する木工作業などの様々な活動に全員で取り組んでいます。今後はさらに、オープン陶土を使った器作りや、多肉植物の栽培なども予定しています。

中学部からの取り組みが高等部での作業学習、さらには卒業後の進路にまでつながっていくことを意識しながら、安全に気を付け作業に臨む態度や仲間と協力することの大切さなどを育てていきたいと考えています。

畑で栽培した野菜類は、夏野菜カレーセット用に販売できることを目指しています。また、年度末の販売会ではフラワースタンドにオープン陶土の器に入った多肉植物を飾ったセットで販売できるよう頑張っています。

販売会を開催できるようになりましたら、中学部の作業学習の成果をぜひ見に来ていただければと思います。



< 高等部 >

だて支援学校高等部では将来の職業生活や社会生活を見据え、地域社会と繋がり、地域社会へ貢献できる作業学習を目指し学習を展開しています。

クリエイティブサービス班では、主に革工製品、手工芸製品の作成を行っています。使ってもらう人に喜ばれる製品を考え、丁寧なモノ作りを行っています。革工製品では、伊達地区ならではの材料として、駆除されたイノシシの革を使い、製品の開発に取り組んでいます。さらに伊達地区の事業所などから技術提供を受けることで生徒の意欲を高めることができるように工夫した学習を行っています。

アクティブサービス班では、主に清掃作業、農耕作業に取り組んでいます。専門的な用具を使った清掃作業、製品となる農作物の管理を行うことを通して、指示理解や報告・連絡・相談などの力を高めています。また、地域の施設や福祉事業所の清掃や緑化作業を通して、人とのかかわりを広げながら、地域へ貢献する資質能力を身に付けることを目指しています。

今後、販売会等の活動も計画していく予定です。その際には、多くの方にご来校いただき、生徒と関わっていただければと思います。よろしくお願いいたします。



卒業生のお話を聞く会 に参加して

◎5月25日(水)に「卒業生のお話を聞く会」を開催しました。高等部、中学部3年生の生徒と保護者の方に参加していただきました。

高等部 M.S

5月25日、卒業生のお話を聞く会がありました。私は2年生になり、6月に初めての校外での実習があるので、今からとても緊張しています。

大笹生支援学校を3年前に卒業された八巻拓道さんは、現在ウエルシア薬局さんにお勤めになっていて、飲み物やトイレトペーパーなどの補充の仕事をされているとお話がありました。お話の中で私が心に残ったのは、お客様から「ありがとう。」と言われることと、自分に仕事を任されるのが嬉しいし、やりがいがあるという話をされていたことです。

宮川華さんは、八巻さんと同じく3年前に大笹生支援学校を卒業され、現在ベーシック憩さんにお勤めになっています。宮川さんはお菓子班で、ラスクやクッキーなどの焼き菓子の製造だけでなく、異物が入っていないか、一個一個確認をする仕事もしているということでした。私は、長時間集中して仕事をしていることや、重要な仕事を担当されていることがすごいと思いました。宮川さんのお話の中で心に残ったことは、自分が作ったお菓子を食べたお客様から「美味しい。」と言ってもらえるのがとても嬉しいということ、日ごろからのあいさつや身だしなみ、衛生面の管理が大切だということです。

私は、人の前に立つと緊張して声が小さくなってしまうことがあるので、これから始まる前期現場実習では、あいさつや自分の思いをお客様と一緒に働く会社の方に伝えることを意識して実践できるよう、これからの学校生活でも取り入れて頑張っていきたいと思います。

八巻さん、宮川さん、貴重なお話をありがとうございました。

令和4年度卒業生のお話を聞く会には、小学部から高等部まで多くの保護者の方々にご参加いただきました。ご参加いただきました、保護者の方々からはたくさんの感想をいただきましたので、一部を紹介させていただきます。

○大きな声で、ハキハキとお話されていて聞きやすかったです。体験、経験を積んで、自信につながったことが表れたと思います。

○商品の補充、陳列等の仕事ぶりが、とても丁寧でした。お客様の案内も、聞き取れなかったときにきちんと聞き直すことができていた、大人でも難しいときがあるのに驚いた。

○日頃から挨拶、正しい言葉遣いが大切だと感じた。

○元気な挨拶、正しい言葉使いが大切だと実感した。

○学生と違うと感じた。

○家庭での手伝い等を取り組ませたいと思った。

お忙しいところ、ご参加いただき、ありがとうございました。児童生徒が自ら可能性を切り拓いていけるように家庭と連携していきたいと思いますので、よろしく願います。

「拓け!自らの可能性 ～社会参加に向けて～」

本校では、将来の自立と社会参加を目指すために、「自己理解」「自己選択・自己決定」「自己表現」の経験を重ねることで、『自らの進路を自らで考える力』を高められるように、一人一人に応じた適切なキャリア教育の充実に努めていきます。また、生徒一人一人の進路実現のために、学校、家庭、関係機関と連携しながら進路指導を進めていきたいと思っています。

4、5月に、高等部全学年の生徒と小学部5、6年生、中学部全学年を対象に進路希望調査を実施しました。7月上旬に高等部2、3年生につきましては、第二回の調査を行う予定です。保護者の皆さま、ご協力よろしくお願いいたします。

事務室前の掲示板に、各事業所案内などの進路に関わる情報を随時、掲示しておりますので、進路を考える際などに参考にしてください。また、職員室には進路担当者がいますので、ご質問などありましたら、どうぞお気軽にお立ち寄りいただければと思います。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

キャリア支援部 進路指導主事 江田 綾

高等部進路希望調査の集計結果から

高等部進路希望状況(全31名)

希望内容	1年 (人)	2年 (人)	3年 (人)	合計希望数 (人)	希望率(%)
進学	0	0	0	0	0
企業就職	4	5	0	9	29.0
福祉就労	4	5	6	15	48.4
どのような進路を選択するか考慮中	4	1	1	6	19.4
その他	0	0	0	0	0
未定・無回答	1	0	0	1	3.2

